わたしたちのねがい

●自宅から40分以内で通える学校

地元の学校に通えず、1時間以上かけて通う子もいます。適正に整備され、自宅から40分以内で通える学校を。



●小学部・中学部・高等部がある一貫した教育が受けられる学校

府内各地域に適正に学校があれば、12年間の一貫した教育を受けられるようになります。



●適正規模※150人～200人の学校



適正規模の学校なら特別教室をつぶさず、ゆとりをもって勉強ができます。

※大阪府学校教育審議会(1992年12月)は、知的障がい支援学校の適正規模を150人～200人とする答申を出しています

この8年間で集約した署名 20万3632筆！

みなさんの署名が「3校整備」の実現へ

2018年から、大阪障害児教育運動連絡会は、府立支援学校の「過大・過密」による「教室転用」や、数合わせの「通学区域割の変更」、定員を超える「つめこみ」教室など、人権侵害ともいえる劣悪な学習環境の改善を求めて、府立支援学校の増設を求める請願署名のとりくみをはじめ、この８年間で20万3632筆の請願署名を府議会に届けました。

そして、わたしたちの運動により、2024年４月に府立出来島支援学校が開校し、さらに豊中市（豊中市立第七中学校の施設活用）、大阪市鶴見区（府立茨田高校の施設活用）に、新たに支援学校が整備されます（2028年度開校予定）。そして、交野支援学校四條畷校が本校化し、小学部が設置されます。しかし、まだまだ学校増設が必要です。

ABCテレビニュース公式チャンネル

ABCテレビ「ニュースおかえり」で大阪の知的障がい支援学校の実態について特集されました。

大障教ホームページからこれまでの支援学校増設運動の資料やリーフ、署名用紙をダウンロードできます。

文部科学省は、時限措置で支援学校建設に対する国庫補助の増額を打ち出しています。特別支援学校を設置する義務を負う大阪府に

「いまこそ支援学校の新校整備を！」の声を届けます。

「府内各地域に知的障がい支援学校の新校整備を求める請願」署名にご協力ください。

府内各地域に知的障がい支援学校の新校整備が必要です

障がいのある子どもたちに当たり前の学習環境を！



障がいのある
子どもたちの笑顔が
あふれるのびのび
たのしい学校を
もっとつくってください。

長谷川義史

大阪障害児教育運動連絡会

大阪の障害児教育をよくする会　大阪府立障害児学校教職員組合　大阪障害児・者を守る会　大阪教職員組合障害児教育部
障害者（児）を守る全大阪連絡協議会　全国障害者問題研究会大阪支部

【連絡先】〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11-704 TEL：06-6765-8904 大阪府立障害児学校教職員組合内 大阪の障害児教育をよくする会事務局

「過大・過密」「教室不足」
「長時間通学」解消に向けて

支援学校を抜本的に整備してください！

人権侵害ともいえる支援学校の実態

A 支援学校 50年以上使用しているプレハブ教室

一般的には30年から40年が耐用年数と言われている



B 支援学校 1教室を間仕切りして2教室に転用



中学部の生徒（8人）と教員でいっぱいの普通教室。定員6人を超えて「圧縮クラス」に!!

府内の支援学校の実態をまとめた冊子（2022年作成）はコチラ

「数合わせ」のための「いびつな通学区域割」生活圏・福祉圏域を無視し、長時間通学！府内各地域いたるところで、起こっています!!

「小中高一貫教育が受けられない！」「同じ市内でも、支援学校は別々に…」
「高等部で友だちと離ればなれに…」「近い支援学校に行けず、１時間以上かけて通学」

❶北河内地域【四條畷校本校化にともなう通学区域割変更は、2027年公表予定】



北河内地域
- 交野市：高等部から遠い、交野支援学校四條畷校へ
- 高等部進学時に、別の学校へ進学
  枚方市東部：枚方支援学校→交野支援学校四條畷校
  門真市：守口支援学校→寝屋川支援学校

北河内・中河内地域の計画は、四條畷校に小学部設置のみです。少なくとも、あと3校（枚方市・門真市・東大阪市）は必要です。

❷中河内地域【2028年度４月からの通学区域割（2026年６月府教委発表）】



東大阪市地域
高等部進学時に、３校に分かれて進学
- 東大阪支援学校
- 移転・併設する生野支援学校
- 大阪市北東部地域支援学校（仮称）

❸泉佐野市・熊取町地域



最低限の基準を満たしていない!!

2021年度に制定された「設置基準」（特別支援学校を設置するために必要な最低限度の基準）では、１学級の子どもの数、校舎・運動場の面積、備えるべき施設などの基準が定められています。

府立支援学校の半数以上の学校が「設置基準」を満たしていません。文科省「公立特別支援学校教室不足調査」で大阪府は、2023年度2025年度全国ワースト２（「不足教室」358室）となり、深刻です。

増えつづける児童生徒数

（府立支援学校で学ぶ知的障がい児童生徒数）



保護者の声

私の息子はてんかん発作持ちのため、主治医からの指示で通学バスにも指定のチャイルドシートを装着しています。現在の通学区域割では、高等部から遠く離れた四條畷校に通う予定にはなっていますが、そうなると通学バスの乗車時刻が早くなり長時間にもなるため、不安が尽きません。四條畷校本校化に伴う新たな通学区域割の変更も不安要素です。息子にとって、生活圏、福祉圏が一緒の地元にいられ、小中高一貫して同じ支援学校に通えることがとても大きな意味があると思います。環境が変わることが一番の問題で、小中高一貫で通えるように整備が進めばと思います。